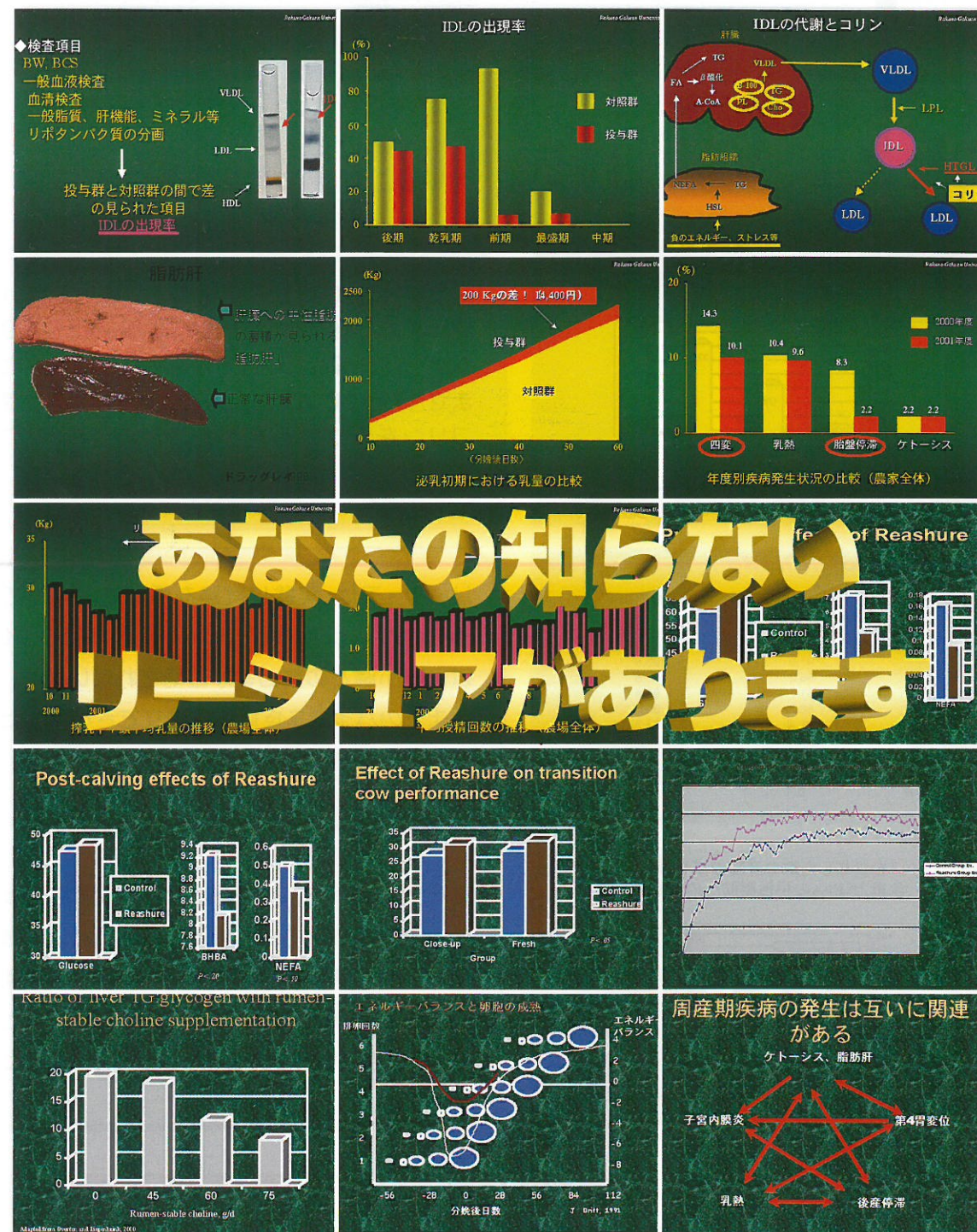




REASHURE™ CHOLINE

Rumen Stable
Encapsulated Choline

お求めはエヌワイエスまたはお近くの各代理店で



株式会社エヌワイエス

〒025-0001 岩手県花巻市天下田158-5 Phone: 0198-22-3978 FAX: 0198-24-4776
E-mail nyscoltd@coral.ocn.ne.jp

お求めはエヌワイエスまたはお近くの各代理店で



株式会社エヌワイエス

〒025-0001 岩手県花巻市天下田158-5 Phone: 0198-22-3978 FAX: 0198-24-4776
E-mail nyscoltd@coral.ocn.ne.jp

脂肪肝にとってもいい話

周産期疾病の発生は互いに関連がある

ケトosis、脂肪肝



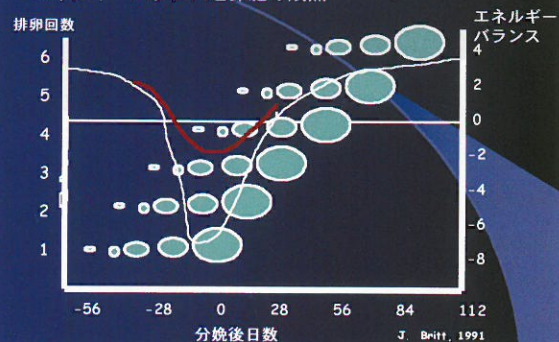
牛の分娩前後のケトosis、起立不能、第4胃変異、後産停滞や体調不良は、脂肪肝と密接に関わっていると各研究機関で報告されています。エネルギーのバランスがマイナスになることにより発生するといわれています。

脂肪肝



健康な牛の肝臓と脂肪肝の牛の肝臓です。牛は、他の動物に比べて脂肪肝に陥りやすい動物だといわれています。育成牛でも4日間絶食させると急性の脂肪肝になり、分娩前後であれば2、3日食べられないだけでなってしまうといわれています。

エネルギーバランスと卵胞の成熟



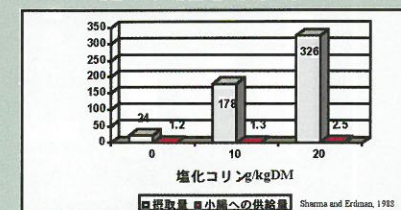
エネルギーバランスのマイナスと脂肪肝が、牛の繁殖に密接に関わっていると各研究機関から報告されています。周産期の管理は、いかに周産期にエネルギーバランスをマイナスにさせないかに、かかっているといっても過言ではありません。

コリンの研究の歴史

- 初めて分離される。(Strecker, 1849)
- 脂肪肝を予防することが発見される。(Best et al., 1932)
- 鶏において栄養要求量が決定される。(1940,s)
- 乳牛における研究が開始される(1980,s)
- リーシュアの完成(1990,s)

コリンという物質が、150年以上前に発見され、70年前に脂肪肝を予防することがわかり、20年ほど前から乳牛での研究が始まりました。しかしバイパスされなければ意味がないことが発見されリーシュアが誕生しました。

カプセル化されていないコリンは十分に乳牛に給与されない



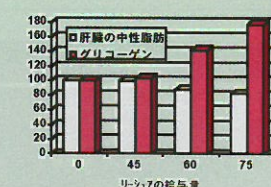
コリンは、たいへん微生物に分解されやすい物質なのでせっかく給与してもルーメンで99%以上が分解され小腸ではほとんど吸収されません。そこで開発されたのがリーシュアです。コリンをカプセル化することにより、牛に利用できるようになりました。

Reashure CHOLINE

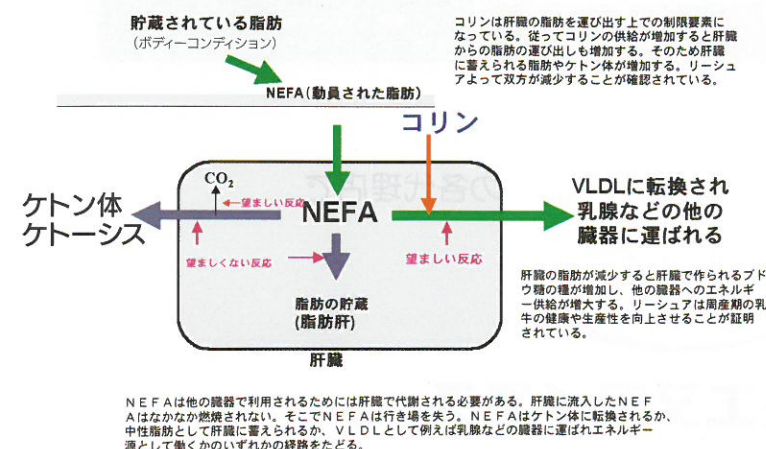
サンプル	ルーメンでの安定性	小腸での放出率
1	90.1	84.9
2	90.5	97.3
3	97.8	95.8
4	86.2	91.8
5	81.7	98.4
6	80.5	95.0
7	81.4	93.3
8	85.5	94.6
9	86.4	94.4
平均値	86.7	93.9
標準偏差	5.1	3.7

リーシュアは、実験に実験を重ねてきわめて高い約86%以上のルーメンバイパス率と93%以上の小腸での放出率が証明されています。今までのバイパス技術では確立できなかったきわめて高い数値といえます。

リーシュアを給与した際の肝臓のグリコーゲン含量とNEFAの中性脂肪への転換



リーシュアは、何度も研究を重ね肝臓にとって一番効率のよい給与量として60gという数字を発見しました。リーシュアを60g給与することにより小腸まで届くコリンは、約11.4gということまで明らかにされるようになりました。



原材料名 植物油、コーンコブミール

含有する飼料添加物の名称 塩化コリン、乳化剤

容 量 10キログラム

給与方法 分娩前3週間から分娩後約60日まで1日60g給与

BALCHEM